

# 親と子が共に育ち合うための保育環境づくり

—家庭との連携を通して—

副園長 福田 郁子

## はじめに

近年、少子化に代表されるように、子どもを取り巻く社会的、経済的な環境が大きく変革する中で、幼稚園には地域の子育てセンター的役割を果たすことが求められるようになった。1998年の『幼稚園教育要領』の改訂により地域の「幼児教育センター」としての役割に関する内容が新たに示され幼稚園における「家庭との連携」はこれまで以上により重要な課題となっている。

さらに、2000年7月の文科省の新しい時代の幼稚園教育を実現するための施策提言により、これからの幼稚園には保護者に対して、「保護者として成長する場」を提供していくことが求められることとなった。

そこで、本園においても子どもたちの成長を願い、家庭との連携を通して親と子が共に育ち合うための保育環境づくりに取り組んできた。

### ○ 保護者と連携して保育環境をつくっていく

保護者と共につくり上げる行事

・附属幼稚園夏祭り『ひょうたん池まつり』

子どもたちのくらしを見ると今年もまた「ケーキ屋さん」や「レストラン」など「お店やさん」の活動をととても楽しそうにやっている姿がしばしば見受けられた。

また、昨年度行った「秋祭り」の経験のある年長児たちは、昨年の年長児たちが秋祭りで作り上げた「おぼけやしき」をまねして作って遊んだり「当てくじやさん」をしたりするなど、楽しかった秋祭りの経験が子どもたちの生活のいろいろな場面で活かされていることを感じる事ができた。

そして、秋祭りの活動は、子どもたちが他学級や他学年の枠を超えて関わり合う力の育ちにもつながっていき、遊びのイメージをより豊かにし創造的に工夫していこうとする姿や人と関わる力を大きく育てていったことも捉えることができた。

そこで、今年も上に述べたような子どもの姿や育ちを期待して、保護者との連携・協力のもとに「おまつり」を企画していきたいと考えた。

おまつりに参加することにより子どもたちはその雰囲気を感じたりお客になってやりとりする楽しさを味わったりする経験をすると共に保護者の企画に触発されて自分たちの遊びのイメージを広げていくきっかけにもなる。そして、この「夏祭り」での経験が2学期以降の子どもたちの生活の中で活かされていくことを願い、保護者と教職員が心をつなぎ、力を合わせ企

画・推進していった。

特に、この「夏祭り」では保護者全員に何らかの形で出来ることを出来るように参加・協力いただくという実行委員の願いを持って計画・実行していった。

《夏祭り後の保護者へのアンケートより》

- ・お祭りならではの楽しい雰囲気子どもも家族みんなも味わえた。
- ・おみこし、盆踊り、花火と夏らしく印象的であった。
- ・親ががんばっている姿を子どもが見ていたことも子どもにとってはプラスになったと思う。
- ・全員でつくりあげた祭りと言う感じでよかった。
- ・分担が決まっていたので参加・協力がしやすかった。
- ・みこし、花火、警備は父親の役割に適していた。
- ・父親がいろいろな活動に参加することにより、幼稚園教育に関心をもつきっかけになったのではないか。
- ・今まであまり知らなかった保護者同士が祭りの準備を通して仲良くなれた。
- ・作業ボランティアの呼びかけの仕方と作業場所の確保がうまくいかなかった。
- ・土日や幼稚園が終わってからの準備は大変なのでは。保育時間内の準備で出来る限り保護者の方全員の協力で出来ることをしたらよいと思う。

今回の祭りにおいては、保護者の方全員に何らかのことで祭りに関わってもらいたいという願いから作業ボランティアを募ったり役割を割り当てたりして取り組んだのでたくさんの方に祭りに関わってもらうことが出来た。保護者や教職員の手作りのコーナーやアトラクションに子どもたちは大喜びで楽しい時間を過ごすことが出来た。

11月には子どもたちが企画・推進し「秋祭り」を創っていったが、園庭にあるひょうたん池を使ってのさかなつりのように夏祭りのときの経験から再び同じさかなつりのコーナーを考えたり、おみこしやおはやしなど、心に残ったことを取り入れたりして活動する子どもたちの姿が見られた。

また、「夏祭りの準備をする中で、保護者同士が出会い親しくなっていくことが出来た」「父親が参加・協力できる場があるというのは、普段なかなか幼稚園のことに関わることができないので情報を収集したり交換したりするのによい機会だ」「お祭りを創るところから参加したのでその過程がとても勉強になり充分楽しむことが出来た」という保護者の声にもあるように、夏祭りが保護者同士、つながりを持ち親しくなっていく場となったのはうれしいことであった。

また、保護者の方にはいろいろご協力いただいたが、実際にやってみると楽しさも完成の喜びも大きかったという感想があったのも喜ばしいことであった。

1月には祖父母や保護者の皆さんと共に「もちつき」の活動に取り組んだ。

## ○育児について語り合う場を設ける

### ・誕生会のフリートーク

フリートークの会も、今年で三年目となったので、保護者の皆さんにも浸透していったようである。毎月一回、その月の誕生会の日（誕生日が始まる前の一時間）に研究室で開いている。3・4・5歳児の誕生児の保護者を対象とし、園長と二人で参加しフリーに話す中で、子どもたちの成長を喜んだり親の思いや悩みを語り合ったりしている。また、幼稚園の最近の様子なども伝えていき保護者にとって幼稚園のことを知るよい機会となるように、また保護者の願いや思いを感じ、幼稚園への要望等を受け止めることのできる場としたいと願っている。

### 《フリートークの会で話題となったこと》

- ・初めての集団生活（入園間もない頃）について
- ・子どもたちの成長について
- ・遊びについて（自転車、虫取り、どろ団子、こまなど）
- ・男の子と女の子の成長について
- ・塾通いについて
- ・トラブル場面について
- ・早生まれについて
- ・安全管理について 等

入園間もない頃は、初めての集団生活で子どもも保護者も不安や心配がありそのことに関しての話題が多かった。誕生月で集まっているのでちょうど一年ずつ違う年少・年中・年長の保護者がいて、入園当初の様子などを先輩の保護者がアドバイスし、安心されるなど望ましい関わりが見られた。また、塾やトラブル場面などについてみんながそれぞれの考えを出し合う中でいっしょに方向性を探り、子どもにどのように接していったらよいのか考える機会ももつことが出来た。

この会を通し、子どもと保護者がつながり、顔も覚えることが出来るのでその後お互いに声をかけやすくなった。

また、異学年の子どもの保護者が出会い子育てについて語る中で保護者の不安が解消されたり子どもの成長の見通しがもてたりするなど保護者同士で子育てについて考え学び合うよい時間となっている。

安全面についての要望など、保護者の声を直接聞くことが出来たのも参考になった。園と保護者との距離が縮まり信頼関係につながるような会になるようにしていきたいものである。

## Ⅲ まとめ

子どもも保護者もいろいろな人との関わりが希薄になり、家庭や地域で人間関係を創っていくことについて学ぶことが出来にくくなっている社会状況の中で、子育ての不安や悩みを受け

止めいっしょに考えていけるようなよい機会をもつことが必要である。

保護者の心が安定すれば、子どもともしっかり向き合うことが出来る。保護者を支えることは子どもを支えることにつながる。

そのためにも、

- ・保護者も園の行事に関わり共に楽しむ。
- ・子どもの成長を共に感じ喜び合う。
- ・保護者と幼稚園との信頼関係を深める。
- ・保護者同士が出会い親しくなる機会や場を設ける。
- ・保護者が子育てについて語り合い学び合うことのできる場をつくる。
- ・保護者自身が成長を感じる場を設ける。

等の視点から、家庭との連携が子どもの成長を願いより充実したものになるように引き続き努力していきたい。親と子が共に育ち合うために。